

地域のもりから学ぶ森林づくり2012

「森林の生物多様性を学ぶ」第五回森林教室

もりの大きさを 知ろう

第5回森林教室は10月12日（金）に簾舞国有林と定山溪国有林で実施しました。今回は一般参加の方と定山溪中学校生徒さんを対象に森の見方や森のボリューム（蓄積）を導き出す測樹体験を行いました。

主に森林教室は奥定山溪国有林を利用し実施してきましたが、簾舞国有林は定山溪の街からも近く今までと違った面の森林を見ることができます。ここでは林道の成り立ちや標高などによる樹木の違いなどを体験することとなりました。

定山溪国有林では、森林総合研究所北海道支所の佐々木・古家さんを講師にむかえ輪尺や測高器を用いての測樹体験です。設定されていた10×20m



のプロット4箇所を参加者が4班に分かれ調査を行いました。調査の中で輪尺は比較的スムーズでしたが、梢が判別しずらく測樹が大変です。調査結果はそれぞれの班が講師の所に記録表を持ち寄り集計を行いました。

最後に佐々木さんから「このような体験を通じて森や山が自分達の生活にどう関わっているのかを知る事も大事。今後も引き続き学ぶ心を養って欲しい。」とのコメントがありました。また、本年度計画されている森林教室が最後と言う事もありセンター所長から「森林や林業、自然に触れる機会を来年以降も引き続き行いたい」との挨拶を受け森林教室を終わりました。



ありがとうございます

短い時間での測樹指導とその結果、講評も併せていただきました。

また、後日調査結果の詳しい内容をまとめていただきありがとうございます。今後もよろしくお願い致します。

（左：古家さん、右佐々木さん）

